



差別ゼロデー UNAIDS

People first（人を第一に）

3 月 1 日は差別ゼロデーです。尊厳を持って充実した日々を送る権利はすべての人にあります。UNAIDS は今年、HIV 陽性者や HIV 感染のリスクに直面する人たちへの根強い差別に焦点を当てています。差別があるために保健サービスを利用できず、権利が侵害され、そして 2030 年までにエイズ終結を達成するための努力も阻まれているのです。今年の差別ゼロデーは 人びとを第一に 考えることの大切さを強調しました。

エビデンスは明白です。HIV 関連のスティグマと差別により人びとの命が危険にさらされています。25 カ国から得られた 3 万人以上の HIV 陽性者のデータによると、スティグマと差別は依然として医療へのアクセス、尊厳、そして人権に対する大きな障壁となっているのです。

HIV 陽性者に対するスティグマ・インデックス 2.0 グローバル報告書によると、陽性者のほぼ 4 人に 1 人が、医療現場を含めた場面におけるスティグマを報告しています。医療現場での差別は、医療に対する信頼を損ない、命を救うサービスへのアクセスが失われる結果を招ことになります。また、HIV 陽性者の 85%が内面化されたスティグマを感じていました。拒絶や批判を恐れて HIV 感染を隠し、治療を中断する人は少なくありません。こうした結果は、HIV 関連のスティグマが副次的な問題などではなく、2030 年までにエイズ終結を達成することを阻む大きな障壁であることを示しています。

言葉よりも数字が語る

- 4 人に 1 人が、HIV 以外の医療で差別を経験：本来、治療の場であるはずの医療施設が、恐怖と拒絶の源になっている。
- 24%は過去 1 年間にコミュニティからの差別を経験：言葉による嫌がらせ、家族やコミュニティ活動からの排除は、依然として日常的に起きている。
- 38%が HIV 陽性を恥じる意識：内なるスティグマが人を孤立させ、必要な支援を求めることを妨げている。
- 85%が何らかの内なるスティグマを経験：自らの感染を隠す、自分には価値がないと感じるなど、心理的負担は計り知れない。

HIV 陽性、もしくは HIV の影響を受けている成人女性や少女にとって、ジェンダーの不平等は HIV に関するスティグマや差別と密接につながっています。性と生殖に関する強制や迫害、虐待は、医療

サービスのあらゆる場面でスティグマと差別が根強く広範囲にわたって起きていることを示すものです。スティグマ・インデックス 2.0 を適用している 23 カ国で HIV 陽性の女性 2 万 6502 人から得られたデータをレビューしたところ、すべての国で HIV 陽性の女性が過去 12 ヶ月以内に何らかのかたちの強制を受けた経験があると報告しています。相互に関連する交差スティグマや差別は、彼女たちが他のサービスを受けるときや、コミュニティ・家庭での生活、および司法や救済へのアクセスにも影響を与えていました。さらに、HIV 関連のスティグマと差別は、ジェンダー規範や不平等と合わさり、女性や少女に対して正当に評価されていない家庭内の無償労働の重い負担を強いるものでもあります。

差別は続いています。そのことが以下の結果につながっています：

- HIV 検査が受けにくい
- HIV 予防薬を含む HIV 予防サービスの利用を諦める
- 治療を諦める
- 保健・医療サービスが利用できない
- 基本的人権を否定される
- エイズの流行に拍車をかける

公衆衛生上の脅威としてのエイズ終結を 2030 年までに達成するという世界の共通目標も、差別に阻まれては実現しません。

差別ゼロデーは、すべての人が情報を共有し、包摂性と思いやりと平和、そして何よりも変革への動きを促すことの大切さを強調しています。

何を変えなければならないのか

1. 差別的な法律を撤廃する

それぞれの国が自国の政策と法律を検証する必要があります。HIV 陽性者や HIV 感染のリスクに直面する人を差別し、犯罪者として扱い、害を及ぼすような法律、そして保健サービスへのアクセスを妨げる法律（セックスワーク、薬物使用、同性間の性関係、HIV の非開示を犯罪とする法律を含む）は撤廃しなければなりません。

2. 医療を受ける権利をまもる

- 個人情報をももる
- 医療従事者への研修に力を入れ、差別を容認しない政策を貫く
- HIV の強制検査を廃止する
- すべての人に思いやりをもって質の高いケアを提供する

3. コミュニティでスティグマ解消に取り組む

- HIV に関する誤解や誤った情報に異議を唱える
- U=U（検出限界値未満＝感染しない）の普及を進める
- コミュニティにおける教育と啓発活動を支援する

4. コミュニティ主導の対応を支援する

- HIV 陽性者が主導する組織への資金を確保する
- 政策決定に意味のあるかたちで参加できるようにする
- ピアサポートのネットワークを強化する
- HIV 対応を主導できるようコミュニティの権利をまもる
- 共感と理解を育む

UNAIDS は 2026 年 3 月 1 日、各国政府、医療提供者、雇用主、コミュニティ、そしてすべての個人に対し、HIV 陽性者や HIV の影響を受けている人の声を聴き、エビデンスに基づいて行動することを求めます。HIV に感染していることに「ひけめ」を感じず、医療の場で差別なく検査、治療、ケアを受けられるようにするにはそれが必要です。

2026 年差別ゼロデーにあたり、UNAIDS はすべての人に呼びかけています。

成果の持続を：有効に機能しているものは継続し、広げていくことが大切です。具体的には、HIV 対策や人権をまもるための資金確保、医療や教育・働く場で得られたスティグマのない実践を制度化していくこと、差別的な法律や政策の改革と撤廃、そして苦労して築き上げてきたコミュニティのリーダーシップ、および法的な保護、U=U がもたらした成果を守ることなどです。

コミュニティとともに：コミュニティ主導の組織を支援し、資金の確保と連携の強化を進めていきましょう。アドボカシー活動を主導し、スティグマのない信頼できるサービス提供が可能になります

ファクト（事実）の共有：ソーシャル メディアや職場、学校を通して事実に基づくメッセージを広げていきましょう。HIV は健康状態に関わることであり、モラルに関する欠陥などではありません。HIV 陽性者が長く健康な状態を保ち、尊厳のある生活を送れるということをメッセージとして伝える必要があります。